「平成29年度青果物輸出特別支援事業」の実績報告（2019年3月）

【　タイ国出張 活動実績　】

日程　3月13日　～　20日　5日間（3/14-16除く）

	会社名	役職	氏名
出張者	GLO-berryJapan㈱	代表取締役	伊東良久
		担当	Donchanok Labanalabhananda(清

（持参　果実）

持参者	持参品	数量		仕入れ先	持参先
GLO	イチゴ	4p	1kg	燦燦園品	バンコク

日程	場所	内容
13日㈬	長野⇒成田⇒バンコク	成田⇒タイ/バンコク
		バンコク空港着後　卸業者 A社　担当者へイチゴ提供
14日㈭	バンコク⇒シンガポー	業務外（別途シンガポール詳細報告）
15日㈮	シンガポール	業務外（別途シンガポール詳細報告）
16日㈯	シンガポール	業務外（別途シンガポール詳細報告）
17日㈰	バンコク	和食レストラン　2社 タイ国輸入規制の件説明及び今後展開検討
18日㈪		輸入業者　2社　　旅行社　1社 タイ国果実輸入規制説明及び今後展開方法検討
19日㈫		輸入業者　及びCAFE タイ国果実輸入規制説明及び今後展開方法検討
20日㈬	帰国	ANA848　タイ/バンコク　10:15⇒　羽田　17:55

【タイ国へ輸出基準　変更の説明　】
・園地及び梱包施設　登録制となり4月より施行される（厳密には3月27日　28日）
・対象果実　：基本全般果実
・弊社仕入先生産者・梱包施設において:　イチゴ・りんごは登録済み　ぶどう申請予定
・書式等は現在未定
・手荷物輸出に関しては、日本国内書式には　未記載ではあるが、どうも禁止されるよう
　よって　今後販売促進イベントにおいて要検討事項となる
・旅行社にとっては、ツアーの目玉となる企画「果実土産」が難しく。
　個人旅行と差別化が厳しくなった

・GAPに準ずる　基準が品質管理に求められている。
　コストは確実に上がるものの、左ページの価格帯では
　今後かなり厳しくなる。価格を再度引き上げるには
　相当の営業努力が必要である。

【今後及び来年度　計画】
・メインユーザー　A社との今後について検討会
　先ずタイ国輸入基準変更に伴う　輸入方法を明確にする
・ターゲット先ごとに　品質・価格　検討
※日本産果実の今年になってからの価格下落状態が、
エンドユーザー（Cafe・レストラン及び小売り）からは、
ジャパンブランドのイメージが落ち　価格のみを見始めたと。
日本産に拘りがなくなった。安価品（韓国産・アメリカ産）へと
傾きやすくなったと。 この状況が続けば　ますます拍車かかる
日本産果実も　品質より価格ありきに。

【　日本産果実　量販店　販売状況　】　（¥3.5/バーツ計算）
GLOグループが販売している　りんごと、量販店で販売している　りんごの
品質の差があまりにある。またそれにより価格差も大きい。（他社品安価）
ただ　この他社が販売している　りんごは、いわゆる傷もの。
買う人がいるから良いの? かなと。 ジャパンブラントはいずこに。
せめて一般的品質レベルでの販売にならないものか？
タイの人は　品質とともに価格をかなり重視する。価格の差は品質の差と説明し
どこまで通じるか？　今後影響が出る　りんごの価格と品質。

GLOグループ

他社　量販店品

イチゴも　かなり安くこの量販店(他社品)では販売されていた。
大体　300～350バーツ/パック（¥1,050～1250）
この価格が今後イチゴの基準価格となりそうであり、安値低迷にはいりそうである

この店舗では、紅ほっぺと　スカイベリーが同価格で販売されていた。
この小粒スカイベリーも流通しはじめようだ。

この価格帯でも、生産者が豊かになるのであれば、良いのだが。

ても

ら。